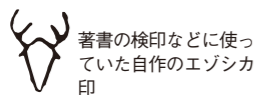
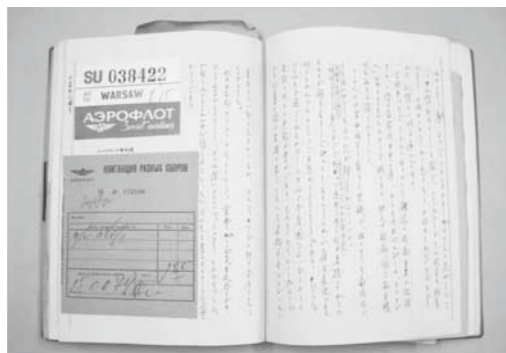




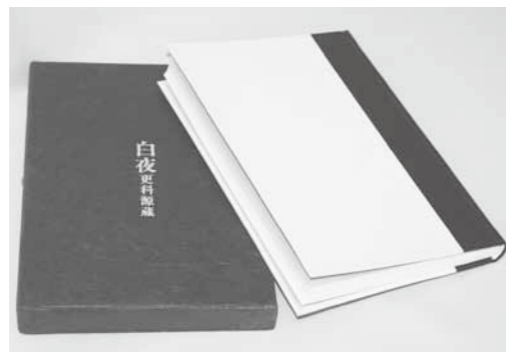
更科源蔵(さらしなげんぞう)
 ●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
 ▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



手荷物引換券や出国税などの紙片が挟まれた手記



帰国後、旅の印象を散文詩のようにまとめ出版された『白夜』



サンクトペテルブルグ(ソ連時代のレニングラード)のアレクサンドル・ネフスキ墓地にある、ロシアの作家ドストエフスキーの墓を訪れる更科

散文詩集『白夜』

更科が70歳になった1974(昭和49)年。ポーランド、チェコの国際文化交流の招きと、北海道対外文化協会の企画で、北方民族視察団(高倉新一郎、更科源蔵、今村成和、澤田誠一、高倉とき)として、6月11日に東京を出発し、6月30日(いずれも日本の日付)に帰国する、20日間の旅をしました。訪問先は、モスクワ、レニングラード、ワルシャワ、プラゲ、コペンハーゲン、オスロ、ヘルシンキ、ストックホルムの東欧、北欧地域でした。

『白夜』は、東欧、北欧の旅を終えた1975(昭和50)年2月、『日本農民詩人史』で更科や中島葉那子など道内の詩人を紹介した松永吾一の手で、限定出版されています。

更科は「これは詩などというおもしろいものでもないかもしれない、然し紀行文とか日誌というものでも随筆でもない、この夏白夜の北歐を旅した随想をこんな形にまとめてみたもので、永い生涯をかけて収穫としてはあまりのまずしさに痛みすら感じますが、こんな所属不明の文章もあっていいのではないか」と自嘲しています。また、このほかに旅のチケットの半券などをスクラップし、訪問先の印象を日付ごとに書き留めた「手記」(未

発表)が残されています。

更科たち一向は、北欧、東欧の訪問先で、19世紀の文豪、詩人、芸術家などの足跡をたどります。しかし、北欧で更科は「ここでもすでにラップ人の姿を見ることができない。皆もつと北の方に移動してしまっただけであらう。それともあの霧の中であざやかな大輪の花のような衣装を脱ぎ捨ててしまったのであろうか」と、少数民族と彼らの文化の行く末が気にかかるのです。

『白夜』には「こんどの旅は別に深い意味もない。ただだんだんの旅とちがったとすれば、信濃川のほとりと吹雪の音しかしない熊牛原野より知らずに終わった母の写真を、こっそりと胸に抱いていることだった」開拓の苦勞より知らなかった母の写真を抱いた一人の旅人が、「何十年も忘れていた子供の頃の母のふところに鼻を埋めた日のことを思い出した」の文章があります。気心の知れた仲間たちとの楽しい旅だったのですが、更科にとっては母との二人旅でもあったのでしょうか。

※ラップ人：スカンジナビア半島の最北の地方に住み、トナカイの放牧を主な生業とする少数民族。

道路パトロールカーで 子どもの見守り実施



車に貼られるステッカー

北海道開発局の年間維持除雪企業をメンバーとする「北海道維持除雪管理ネットワーク協議会」と北海道警察本部生活安全部が11月12日「子ども

を見守る活動に関する協定書」を取り交わしました。

同協議会員の道路パトロール車に「子ども110ばんのくるま」というステッカーを貼り、子どもや地域の安全啓発のほか、緊急時の子どもの保護や、警察への通報を行うなど、子どもの安全確保において、同協議会と警察が連携していくというものです。

町内では、開成建設工業株(小澤由明代表取締役)・明盛建設株(藤田文明代表取締役)・株佐藤建設工業(佐藤洋司代表取締役)の道路パトロールカーが、同協定に基づいた「子ども110ばんのくるま」となっています。

ファイターズ選手 町の応援大使に

プロ野球北海道日本ハムファイターズの鶴岡慎也捕手と谷元圭介投手が、本町の応援大使に就任しました。

同球団の「北海道全力応援プロジェクト」に本町が選ばれたものです。プロジェクトは、2013年に球団が北海道移転10年目を迎えることから、道民への感謝の意を込めて企画されたもの。今年から10年計画で、主に1軍レギュラー2人が1年間、道内179町村の応援大使を務めます。

プロジェクト1年目の今回は、道内96市町村から応募があり、本町を含む18市町村が選ばれました。

鶴岡・谷元両選手は1月から1年間、本町のPRや活性化などのため活躍します。

☎問い合わせ先/役場企画財政課企画係 ☎482-2913(課直通)まで。



図書館だより

中央2丁目4番1号

☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆古雑誌をお譲りします

保存期間が過ぎた雑誌を提供します。図書館では、定期購読している雑誌の保存期間を3年間としていますが、3年を経過したものは処分となりますので、今回は2009(平成21)年に刊行された雑誌が対象です。1月8日から図書館内に展示し、現品がなくなり次第終了します。※お一人3冊までを目安にお選びください。

※先着順のため、取り置きのご希望にはお応えできません。

▼提供期間/1月8日(火)から、対象の雑誌がなくなるまで。

▼場所/図書館内

☆新年は1月8日から開館します

▼年末年始休館日/12月30日(日)~1月7日(月)

※休館中、本の返却は図書館玄関横のブックポストをご利用ください。

新しい年も、皆さんの暮らしに図書館をお役立てください。

新刊案内

- 「ギネス世界記録2013」 クレイグ・グレンディ/編
 - 「動物おもしろカミカミうんち学」 岡崎 好秀/著
 - 「安心レシーブ完全ガイド」 安心L.A.S.I.K.ネットワーク/編
 - 「神去なあなあ夜話」 三浦しをん/著
 - 「週末うつ なぜ休みになると体調を崩すのか」 古賀 良彦/著
 - 「龍馬異見 秘め火」 原子 修/著
 - 「自分は自分人は人」 和田 秀樹/著
 - 「自分ですらすらでできる確定申告の書き方」 渡辺 義則/著
 - 「10分で読めるすいり・たんていの話」 前川 律子/著
 - 「はじめての最新LINE入門」 原 久鷹/著
- たくさんのお待ちはお待ちしています!

へびちゃんおしゃべりだいすき!

きむら ゆういち/作
 ふくざわ ゆみこ/絵



「じゅうにしえん」にかようへびちゃん。みんなをわらわらせてあげたくて、おもしろいことをいったつもりだったけど…。かわいイラストで楽しく十二支も覚えらるる1冊です。

おすすめの最新刊